

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

株価水準が低いほど狙いやすい決算相場



世界的な景気の先行き不透明感から調整色を深める株式相場。日経平均株価は9月安値を下抜いたことで、8月高値、9月高値を結ぶダブルトップを形成するなど、外部要因の軟化とともに下値を模索する動きとなっている。

全体観は振るわないが、来週からは年度上半期となる9月中間期決算がスタート。必然的に個別視点で決算先回りを狙う局面となってくる。外部要因の先行き不透明感から、計画未達、下方修正開示などが予想されるものの、大幅調整による値頃妙味から、決算がアク抜けの好機ともなるだけに、決算銘柄に的を絞った場合、株価水準が低ければ低いほど狙いやすいのではないかと。

そこで弊社では、今回の決算相場における投資戦略をまとめた「厳選銘柄付き緊急市況レポート」を発売することとした。決算銘柄に対する傾向と対策、そして銘柄アプローチを編集したもので、過去の購読者からは好評を得ている。

7月に提供した決算先回り買いテーマ「今夏の決算銘柄を徹底リサーチ！ 決算急騰株を探せ！」のレポートでは、提供5銘柄のうち、Monotaro(3064)、戸田工業(4100)、デジタルガイジ(4819)、オリジン電気(6513)の4銘柄が配信翌営業日から %の上昇率を記録。目標株価達成を果たすなど、過去の実績も申し分ない自信のテーマだ。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。